



▲桜の木の下に集まる参加者ら

桜の木の下でお花見パーティ

好天に恵まれた4月3日、洲本市千草の広い庭に大きなビニールシートとお弁当、お菓子、ジュースを持ち込んで盛大なお花見が行われました。集まっ

たのは会員をはじめ、友人や家族など総勢70人。中には淡路島に研修で来ている中国人の女の子や2ヶ月間だけホームステイをしているカナダの人、淡路で結婚をして暮らしているフィリピンの人など多くの外国の人も来てくれました。(次ページへ)

平成22年度の総会が5月29日(土)に市内のホテルで開催されました。会長あいさつに続いて5議案が提出され、すべての案件が原案のとおり承認されました。

今年度は、洲本市とハワイ郡の姉妹都市提携10周年を記念して、市長と共にハワイ島訪問、在住外国人との交流の場を増やすため外国文化理解事業の実施、ハワイの中学生受入、様々な事業が展開されました。

■総会で承認された議案

- 議案第1号 洲本市国際交流基金の積立について
- 議案第2号 平成21年度洲本市国際交流協会事業報告について
- 議案第3号 平成21年度洲本市国際交流協会会計決算について
- 議案第4号 平成22年度洲本市国際交流協会事業計画について
- 議案第5号 平成22年度洲本市国際交流協会予算について

少し遅めの開始だったので、参加者は花より団子 (!?) だったのででしょうか、まずは桜の木の下でお弁当を食べたらん。お腹がいっぱいになったところで桜の前で記念写真を撮ったり、子どもたちは庭を



走りまわったりと思いきいに花見を楽しみました。その後当協会・人気のアトラクションの餅つきが始まりました。蒸しあがったもち米を臼に移しかえると、もち米から上がる白い湯気に参加者の期待感が高まります。まず始めは米穀店の北谷さんがならし、その後、男性2人が餅をペタンペタンとつき始めました。その様子を見た中国の女の子が「私もやりたーい！」と挑戦。次々に自分達も餅つきをしたいと杵を持って、順番を待ってい

る子どもの姿も見られました。

つきあがった餅は早速、切り分け、丸めて、あんこ、きな粉、しょうゆ、砂糖に海苔などそれぞれ自分の好きな味にアレンジして出来立てホヤホヤの餅を味わいました。中には餅の中にあんこを入れ、表面にはきな粉を塗り、一度で二度おいしく味わっている人も。

美しい桜の花とつきたてのお餅に大満足の参加者。最後には、特別ゲスト (!?) 研修部会の赤井理事、中野理事の同級生で結成されたコーラスグループ：アカペラーズが登場しました。アカペラーズ指導で、「さくら」「Take me home country road」を歌い、最後は全員で「ハナミズキ」を熱唱し、お花見はお開きとなりました。



「さくら」を熱唱中

姉妹都市提携10周年

市長とともにハワイ島を訪問

今年は、2000年に洲本市とハワイ郡が姉妹都市提携を結んで10年の記念すべき年。当協会では市長、議長とともに14人の会員と14人の高校生が8月24から30日の5泊7日の予定でハワイ郡を訪問しました。訪問団の様子を報告します。

8月24日 ハワイにやってきた!!

高校生たちが待ちに待ったハワイ島訪問は家族に見送られて元気に出発するところから始まりました。飛行機を乗り継ぎ10時間をかけて現地に到着すると、ハワイ郡庁舎やレインボーフォールズ



ハワイアンフードを楽しんでいます

を訪問し、ヒロ高校生やホストファミリーが待つヒ

ロ高校に向かいました。ヒロ高校ではハワイアン料理やフラダンスのプログラムが用意され、ていて初日からハワイを感じる1日となりました。



優雅なハワイアンフラダンスにうっとり

8月25日

ハワイと日本の学生生活の違い

一行はヒロ高校の食堂に集合し、ヒロ2日目スタート。高校生たちはこれから授業に参加するぞと

気合を入れるダンスを行い、キークラブ（ヒロ高校のクラブ活動の1つで滞在中の高校生のプログラムを企画してくれている団体）の生徒とともに各教室へ向かいました。高校生たちは生徒が先生の教室を訪れる授業形式であること、生徒がお菓子を食べながら授業を受けていること、自由に発言し議論する姿にアメリカと日本の違いを感じました。



ヒロ高校のコンピュータの授業に参加

協会員はヒロ高校の先生の案内で校内を見学。ヒロ高校生の間に入って授業を受ける洲本の高校生たちを見つけて「頑張っ！」と励ましていました。

その後、高校生たちはヒロにあるハワイ大学ヒロ分校を訪問し、ヒロ分校に通っている日本人学生2人の案内で校内を見学。日本でも大学生活を送った経験があるナナさんから、アメリカで学ぶことになった経緯やアメリカと日本の学生生活の違いについて聞きました。彼女の話に、海外で学生生活を送ってみたいと気持ちが出てきた高校生もいたようです。

一方、ヒロ高校を後にした協会員は、東ハワイキワニスクラブのメンバーと地熱発電所など市内の主要施設を見学しました。

8月26日 ハワイの学生と楽しんだ

市長や議長とともに協会員と高校生は幼稚園児から高校生まで通うハワイ語で授業の行われるナバヒ・スクールに訪問。ナバヒ・スクールでは小学生とともにサツマイモの苗植



ナバヒスクールでサツマイモの苗植え体験

えやハワイ語で歌を歌ったり、フラダンスをしたりと過ごしました。

その後、高校生は海がめが住んでいる



湾で昼食をと ケアウカハ・スクールの小学生とダンスり、ケアウカハ・スクールを訪問。小学生とフラダンスを踊ったり、じゃんけんゲームやパウマ（2人が向かい合い、手を握り、その握った手を胸に当てて勝ち負けを競うゲーム）をしたり、ウクレレやティーリーフのレイ作りを習ったりと楽しく過ごしました。

再び、ヒロ高校に戻った高校生は、テニス、サッカー、プールと時間いっぱい



ウクレレを習得中

で学校生活を体験。疲れた表情も見せずにそれぞれホストファミリーと帰宅しました。

友好の絆を再確認

この日、姉妹都市提携10周年を記念して式典が開かれました。式には、竹内市長、木下市議会議員、ハワイ郡からはケノイ郡長、ヨシモト郡議会議員、

イケダ議員のほか郡関係者とホストの東ハワイキワニスクラブの会長や関係者が出席。協

会員が見守る中、今後も洲本市とハワイ郡が相互交流を行い、友好の絆を深めていくことが確認されました。



洲本市から送られた記念の品



8月27日 ハワイの方へ精一杯の感謝

この日一行は、ヴォルケーノ国立公園やスバル望遠鏡、イミロア天文学センターなどハワイ島の観光スポットを巡りました。



琴井谷会長から
マサハラ先生へ感謝状

夕方から行われたさよならパーティでは、高校生たちはそれぞれホームステイの思い出を英語で語りました。4日間という短い期間でしたが言葉も風習も違う中でそれらを

乗り越えて友好の絆を築いたことと思われます。高校生のスピーチには感謝の言葉と喜びの言葉が詰まり、涙を誘う感動的なものでした。

高校生は感謝の気持ちを込めて何度も練習をした『上を向いて歩こう』『imagine』をギターや口笛、手拍子を入れ歌いました。事前



感謝の言葉はみんなに届きました

研修で何度も練習し、感謝を込めて歌った歌はハワイの人に届いたことでしょう。



▲感謝の気持ちを込めて

▶みんなの顔が描かれた
お手製ケーキ



8月28日 再会を誓って

ヒロを離れる日、空港の別れ際には涙を流し再会を誓う高校生の姿が見受けられました。日本の大学に進学したいと目標を持っているハワイの高校生と、日本に来たら俺たちが案内すると約束したそうです。今回、訪問した協会員らは、この出会いを1回限りにせず今後も何かの形で繋がって欲しいと願っています。



雄大なヴォルケーノの前で

高校生の作文のコーナー

今年、事業に参加した14人からはそれぞれの体験談が届きました。
そのうち2人の体験談を抜粋して紹介します。

長手 遥香(洲本高校2年)



滞在中に習得したフラダンス

ハワイはとても自由で個性が尊重されているのをものすごく感じる事ができ、新鮮な日々を過ごすことができました。

それと同時に、言葉の壁の厚みを感じました。中高で学んできた英語で、少しぐらいは話せるかなあと思っていたけれど、その考えは、全く違っていました。でも、ヒロの皆さんは難しい英語を簡単にしてくれたり、辞書を使って日本語に訳してくれたりしてくださったので、その優しさに助けられるばかりでした。そんな優しさがあったから私たちは心から楽しむことができたんだと思います。

岡本 尚久(洲本高校1年)

このホームステイ事業を通じて、人の温かさを知れたと思う。初めて会った、日本人の高校生を家に泊めてくれ、家族のように接してくれたホストファミリー、言葉も通じない僕たちをやさしく迎えてくれた、ヒロ高校の生徒たち、そしてお金を出して僕たちをハワイに行かせてくれた両親、普段は感じにくい感謝の気持ちがこのホームステイ期間中にたくさん感じる事ができた。僕はこれらの経験や感じたことを生かして、これからの人生を歩んでいきたい。



ケアウカハスクールの人々と

会員交流会 ハワイ島親善報告

8月に行われた当協会のハワイ島親善訪問と青少年ハワイ島ホームステイ派遣事業の報告会が9月13日、市内レストランで開催されました。

最初に、会員より報告があり、続いて14人の高校生が出席者の前に出て、○×形式で体験談を語りました。

コーディネーターの西岡理事から、「英語で話しかけて、通じなかったエピソードとかはないですか？」との問いに、○の札を



ハワイは楽しかったですかの質問に

あげた田中嗣人くんは「ホノルルの空港で昼食にハンバーガーを食べようと思って『Big Mac』と注文したら通じなくて、メニュー番号の『Five』と言ってやっと注文ができました。」と答えました。高校生全員が西岡理事の質問に答えながら、一週間の滞



ビックマックが通じなかった…苦い思い出

在について報告しました。その後、高校生は会員が座るテーブルに別れ、それぞれのテーブル毎でハワイでのホストファミリーの思い出を話していました。今回の会員交流会では協会員からは「高校生からたくさん話が聞け、みんなが楽しんできたことが良く分かりました。」参加高校生より「大人の方の話も聞くことができ楽しかったです。アドバイスももらいました。」というどちらからも楽しいお話を聞くことができました。

最後には参加高校生がハワイで教えてもらったウクレレやフラダンスを披露して一層、会場を盛り上げました。



会員の方にハワイで習ったダンスを披露中



ハワイ郡ヒロ中学生

洲本へようこそ

洲本市の姉妹都市であるハワイ郡よりヒロ中学生14人と教師ら4人からなる訪問団18人が10月9日から1泊2日で洲本に滞在しました。



しこの練習中

訪問団は10月1日から姉妹都市である鳥取県湯梨浜町で一週間ホームステイをした後、広島や香川を訪れ、9日に洲本市の柳学園中学・高校を訪問。相撲道場では相撲部員の出迎えを受け、ハワイの男子生徒2人がまわしを締めてもらい、女子生徒を含む全員で、しこを踏み、すり足などの基本的なけこを体験しました。このあと、数人がかりで大きな相撲部員に立ち向かうなど、歓声を上げながら楽しそうに相撲を取っていました。

その後、訪問した茶道部では、部員から英語でお茶の立て方を説明してもらったあと、見よう、見まねで挑戦。アシェリー・チェンさんは「茶道は初めての体験。お菓子が甘くておいしかった。以前に友達からお茶が苦いと聞いていたが、苦さは気にならなかった。」と話していました。

そのほか、ヒロの生徒がフラダンスを披露し、踊り方を教えるなど、ハワイ文化も広めました。

柳学園に滞在中は、当協会の事業でハワイ島を訪問したことのある生徒も参加し中学生との交流を楽しんでいました。今年、ハワイ島を訪問した山下紗季さんは「中学生と一緒に過ごして、またヒロに行きたいという気持ちももっと強くなりました。」と話していました。

一行は翌日、市内のショッピングセンターなどで買い物をしたあと、関西空港から帰路につきました。



先生も生徒もみんなでフラダンス

変装集団 de ハロウィンパーティ!!

秋が深まる頃にはスーパーではかぼちゃのお化けのイラストが描かれたグッズが売られ始めます。ハロウィンの時期が近づいてきたなと感じますが、このハロウィンはもともとどんな由来があるのでしょうか。

アイルランドに住んでいたケルト人は、1年の終りである10月31日の夜に、死者の霊がこの世に戻ってきて、精霊や魔女が黒猫を連れて悪さをすると信じていました。これらから身を守るために、ケルト人は仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていたことから始まった風習です。当協会では今年もハロウィ

ンを楽しもうと1日早い10月30日に、やまて会館でパーティを開催しました。

ジャックオーランタンが用意され、ハロウィンの



骨ほねがい骨レースで対戦中





雰囲気満点の会場に、魔女や悪魔、パンプキンマン、プリンセスなどに仮装した参加者が集合。参加者はまず自己紹介と自分が何に仮装したかをアピール。その後、みんなが持ち寄った食べ物で食事が始まりました。手づくりのケーキにサラダ、揚げ物、パンやお菓子など多くの食べ物を前に参加者からは笑顔がこぼれました。

パーティの半ばには、参加者は3チームに分かれ、がい骨の絵が描かれた紙片を正確に並べる『ほねほねがい骨レース』を行いました。14パーツをうまく組み合わせると一体のがい骨が完成。しかし、チームによっては間違っただ同じパーツを重複して使った

チームも。余分なパーツが入っているがい骨には笑いが起こるなど賑やかにゲームを楽しみました。

パーティの最後には、今年のベストコスチューム大賞が発表され、アンコウの被り物をした新家美保さんが選ばれました。新家さんは昨年に引き続き2度目の参加。自宅にある米袋を使って前の晩4時間かけて作ったと受賞の喜びの声を聞かせてくれました。



勝利の喜び

学習の秋「外国語講座」

恒例になった外国語講座が9月9日～12月2日の期間、英語3クラスと中国語1クラスで開講されました。例年、リピーターが多いこの講座。今年も数十人のリピーターと新たな受講生が参加した講座は盛り上がりました。

今年は初の試みとして英語クラス限定で、第7回講座では担当講師を入れ替えての講義も行われ、いつもとは違った講座が受けられて楽しかった、盛り上がった、などの声も聞かれました。

講座最終回に閉講式が行われ、各クラスの代表者が約3ヶ月にわたり学んだ成果を発表しました。こ

れをきっかけに学習の輪が広がることに期待しています。



学習の成果を発表中

各講座の講師はコチラ

初 級—カイリー・スエオカ先生

中 級—ジョン・バックナー先生

上 級—パトリック・テイラー先生

中国語—幹田顧敏先生



「琴井谷会長再任」

12月10日、ウェルネスパーク五色夢工房にて臨時総会が開催されました。琴井谷会長の再任が承認され、また監事には伊富貴監事の再任と新たに向山和義氏を迎えることが承認されました。

事業報告として琴井谷会長は今年度は大きな事業として洲本市とハワイ郡の姉妹都市提携10周年を迎

え、竹内市長と共にハワイ郡を訪問したこと、役員の方を中心として今年度も様々な事業が展開されていることが報告されました。今年度もたくさんの事業が予定されているので、引き続き参加して欲しいことと、来年度の2年間で新しい役員の育成などにも力を注いでいきたいと決意を語りました。

インターネットで再会

ハワイと日本ってそんなに遠くない

12月29日にハワイ島ホームステイ派遣事業に参加した高校生12人が集まり、ホストファミリーのウィリー君とインターネットを通じて再会しました。

事業終了後、個人的にスカイプを使って彼との交流を深めていた本間智恵さんの提案で、高校生が集まり実施したのも。

いつも通り本間さんとの会話を予定していた彼は映し出された映像に、ビックリし、「どうして??なぜ??」と聞いていました。彼の目には今年の夏に出



ウィリーとの再会に笑顔がこぼれます

会った高校生たちの顔が映ったのですから。高校生たちは「ウィリーを驚かそうとしてみんなが集まったんだよ。少し遅くなったけど、僕たちからのクリスマスプレゼント。」と話しました。彼のリクエストに答えて、吉田貴信君は得意のマジックを披露し

ました。彼からはみんなへクリスマスプレゼントとして、クリスマスソングの『We Wish You A Merry Christmas/クリスマスおめでとう』を日本語の歌詞で披露してくれました。

その他に、「クリスマスは何をしたの?」「お正月の予定は?」などの話や「自分たちのホストファミリーは今、何をしているの?」と彼に質問しました。彼は高校生にホストファミリーの近況を伝え、その場で電話をかけるなど、ホストファミリーと話をさせてくれました。久々にホストファミリーの声を聞くことができ、高校生たちも喜んでいました。

また、音質などの問題で、質問をしても、なかなか彼に伝わらなかったときには写真をカメラの前に見せたり、スケッチブックで絵を描いたりそれぞれ工夫して伝えました。

今回、集まった高校生たちは、「1時間だったけれど、今日は久々に再会できてとても嬉しかった。」「今度は、洲本の生徒もみんな集まって、ハワイのホストファミリーたちにも集まってみんなで会話をしたい。」と話していました。



吉田君のマジックを楽しみにしているウィリー君

会員交流会

ゲストからみた淡路とはどんなところ？

2月18日、淡路に滞在し始めて数ヶ月から2年未満の島内で活躍するALT5人を招いて今年度最後の会員交流会が開催されました。

ゲストには自己紹介をしていただいた後、淡路での生活や印象について○(Yes)／×(No)形式で答えていただきました。

淡路の生活に満足しているかとの問いに、淡路市ALTのラナさんの答えは“so so”。その理由は自然が豊かなところと静けさについては満足をしているが、車を持っていないためショッピングに出かけるときに不便を感じるということです。淡路市ALTのジョナサンは食べ物がとてもおいしいので“Yes”とのことでした。

日本に来てビックリしたことがあるかとの問いに“Yes”と答えた洲本市のALTカイリーさんは「スーパーで買い物をする際に、漢字で表記されているので、自分が何の肉を買っているのか分からないことがあり困った。またすべてのところで靴を脱がなければいけないことにもビックリした。」と話していました。

その後、ゲスト達はテーブルに着席して、食事をしながら会員との会話を楽しみました。交流会終了



後もテーブル毎にゲストを囲み会話が繰り広げられるなど大いに盛り上がりました。

参加した会員の方からは、「ゲストの隣の席に座ることができて、英語をいっぱい話すことができとても楽しい時間でした。」「大学時代の2年間の勉強と約2年あまりの滞在期間で、日本語を上手に話すゲストにビックリした。」との感想をいただきました。またゲストのカイリーさんからも「とても楽しい時間を過ごすことができ嬉しかった。」とメールが届きました。

ワイン講座

初春ドイツワインの夜

2月11日、12日の夜にドイツワインの夜という研修事業を開催しました。

以前にも、協会の事業として、ドイツワイン葡萄坂のマスターを講師にドイツワインの講習会を開催しています。しかし、その時の開催場所は多目的の公共の会議室で、受講人数も多く、ワインを深く味わうというよりは、ワイン初心者のための最初のステップという趣だったと思います。

今回は、葡萄坂さんのお薦めもあり最適な雰囲気、

環境でワインを味わおうということで、浅い春の夜に葡萄坂の店内、それもカウンターに座れる人数だけという条件での開催となりました。

写真は2日目、土曜日の様子です。

一人の席に全て同じサイズ、形のワイングラスがいくつも並べられていました。これはテイスティングを行うためのグラスで、これで色合いを比べたりするようです。解説とともに数種の赤ワイン、数種の白ワイン、ロゼが1種類、ゆっくりとグラスに注



がれていきました。ワインに合う軽い食べ物（アンティパスト）がお皿に添えられており、それらを楽しみながらワインを頂きました。

同じ赤ワインでも風味、性格の違いが初心者にも判るような配慮の選択であったかと思えます。各人の感想や嗜好が分かれました。白のワインも微妙に色が違っているのが見てとれました。ロゼは赤と白のワインを混ぜたものと思っていましたが今夜頂いたものはそうではありませんでした。

静かな店内にワインの香りと談笑がゆっくりとした時間のなかで揺らめくように流れ、贅沢なワインとの出会いが体験できました。

今夜の受講生の僕たちは写真のように数人でしたからワインもたくさん頂くことができ、すっかり各



注がれたワインに期待が膨らみます

人はほろ酔いから酩酊の間で良い心持ちとなりました。ドイツワイン 葡萄坂のマスターはワインを楽しむ事にいくらでも相談にのって頂けるますので、皆様もぜひこの店を訪れてみてください。

研修部会 赤井 清隆

通な台湾の歩き方

近いアジア 台湾の勉強会開催



先生の言葉に耳を傾けます

3月5日、淡路市在住の西明鳳さんを講師に迎え、「近いアジア 台湾の勉強会」が開催されました。

参加者は台湾に以前訪問したことのある人、これから台湾への旅行を予定されている人で、全員台湾に興味のある12人。西講師手作りのエッグタルトやパイナップルケーキ、ヌガーなど台湾のお菓子とジャスミン茶を飲みながら和気あいあいと勉強会は始まりました。

勉強会は二部制で、一部では台湾には、なぜ複数の言語が存在するのか、また面積や風土、歴史について話を伺いました。日本と台湾の習慣の違いとして、日本ではハンカチを贈り物として使うことがあるが、台湾ではハンカチは通常、涙を拭くときに使われるもので縁起が悪いとされていることなどを教わりました。

また二部では、研修部会長の赤井さんより、もし勉強会当日に、台湾に行っていたらと仮定した旅行プランの説明がありました。何度か旅をした赤井部会長が、滞在時間を無駄にせずに、台湾を3日間で満喫できるオススメ旅行プランです。

参加者の中にも台湾に行かれたことのある人も多く、お土産はスーパーで購入すると良い、買い物袋は有料なのでマイバックを持っていくのが良い、タクシーは安いのでチャーターするのが良い、など台湾に行かれた人だからこそ分かる情報を教えてくれました。

西講師からも龍山寺に行っておみくじをするとおもしろい、台湾最大の夜市の士林夜市では食べ物以外に小物もたくさん売っているのでオススメなど色々な情報を聞くことが出来ました。

参加者の中には、5月に台湾旅行を計画しているので、今日はとてもよい予習になりましたと話す人も。彼女の資料にはメモがいっぱい書き込まれてい

ました。

今日の勉強会をきっかけに予定のなかった人も台湾に行きたくなったのではないのでしょうか。



台湾の御菓子

海外からのお便り

会員の皆様、彼を覚えていますか？

2009年、洲本市国際交流協会のハワイ島ホームステイ派遣事業に参加した中村海人君です。1年前、ハワイの高校生と仲良くなりたいと、英語を使って一生懸命会話をしていた彼。そんな彼の周りにはいつもハワイ学生がいました。ハワイ学生に人気絶大であった彼が、今、新たなステージで頑張っていると聞きました。

彼はハワイ島でのホームステイをきっかけに、海外で学びたいという気持ちが強くなり、厳しい選考をクリアしてロータリー財団国際親善奨学金を利用して、現在アメリカ合衆国に留学しています。彼はアメリカでどのような生活をしているのでしょうか。

アメリカでの生活

中村 海人

こんにちは。僕は2010年8月27日からここアメリカのオレゴン州、ザ・ダルズという所に住んでいます。アメリカに来てすでに6ヶ月が過ぎました。ここでの生活も慣れてきて、楽しい日々を送っています。ザ・ダルズは人口1万2千人ほどの小さな町です。ほんとに田舎です。天気は少し、雨が多いかなといった感じです。暖冬(?)のせいかな、全然寒くありません。

学校は基本的にすごく自由です。授業中のおしゃべ

りは普通で、音楽を聴いたり、お菓子を食ったり、すべてOK。男女ともに仲が良く、先輩後輩がないので、学年を超えて友達が作れます。今のところ、女



一番最初のホストファミリーと



友達が明らかに多いです。英語はまだまだ難しく感じますが、英会話はものになってきました。現地の英語はものすごく速くて、最初は全く聞き取れませんでした。短縮が多く、結構文法も崩れています。日本で学んだものとは違います。

残された時間はほんのわずかですが、これからはその時間を大切にして有意義に過ごしたいと思います。

▼仲良しの友達



▶僕が通う学校



▲ザ・ダラスの町



2番目のホストファミリーの家で（普段はこんなに多くありませんが、クリスマスイブだったので、みんな集まりました）